

## 幼稚園・保育所花壇の部

### 総 評

審査は7月21日に行いました。園によって花壇を設置できる場所はさまざまですが、狭い場所でもプランターをうまく利用して、子供たちのためにはもちろん、園児の送迎の人々、公道に面した所を意識した花壇等、地域交流のある花壇づくりになっていました。そして、いずれの園においても子供の目線を意識し、園児が花壇の中に入って遊んだり学んだりできるように、花のトンネルやストーリー性が感じられる子供のための工夫が花壇の随所にこらされておりました。

日常の遊びの中で、多種多様な植物に触れる機会を作り、花がある環境の中で、きれいな花を集めることを楽しんだり、色水をつくったり、ケーキ を作って飾ったり、多様な活動が生まれ、花の色彩や香り、蜜の甘さ、土の感触、そこに飛来する野鳥や昆虫の生態を観察するなど、一人一人が多くのことを学んでいるのだと感じました。

また、花壇やプランターに野菜を育てているところもありました。花が咲き、実がなり、収穫を喜び、感謝して食すことで、子どもたちは退屈することなく「食」を学ぶことができるのですね。なお、今回の応募は県下全体の推薦枠の3割にも達しなかったようで、来年は各支店からの応募があることを期待しています。

### 最優秀賞評

最優秀賞を受賞した富山市の『新庄保育所』は、近所で雪折れした桜の枝をアーチ状にし、アサガオやフウセンカズラを這わせたり、ペットボトルを利用したハンギング、既存のプランターはプラ板で電車に変身させ、花々の中に動物の乗客を乗せ、グリーンカーテンのネットには、牛乳パックで作った虫や、虹を配置するなど、子供たちが毎日楽しみに登園したくなるような工夫にはすばらしいものがありました。

また、畑のトウモロコシはあえて大人が口を出さず、鳥に食べられたら来年はどうすれば良いか子供たちと考える(職員が子供の声を聴いて次につなげる)とのこと。子供たちが自由に植物と触れ合い、アイデアを出し合い、夢いっぱいの空間が広がる花壇づくりがなされていました。

(審査委員長 舘 睦美)